

IV. 小児の血圧について間接的血圧測定法による接近

弘前大学医学部衛生学教室において試作中の多目的自動血圧計の機構を用いて、コロトコフ音を中心に純客観

的に各種要因について検討した。すなわち、各種マンシエットについて、上腕囲との関係圧力の上昇、下降の速度との関係、コロトコフ音の性質などについてであり、その成績の一部は昭和52年4月開催予定の日本衛生学会総会において発表予定である。

昭和50年、51年度の研究のまとめ

弘前大学医学部 佐々木 直 亮

- 1) 中学生の血圧の追跡的疫学研究の成果 (論文別刷)
- 2~4) 昭和51年度の研究成果

抄 録

弘前大学医学部 佐々木 直 亮

1) 中学生の血圧の追跡的疫学研究の成果
佐々木, 他: 秋田県一農村における中学生の血圧とその後の推移について, 第4報, 中学生時代の血圧と成人後の血圧との比較検討。

弘前医学: 28(3), 427-437, 1976.

2) 皮厚計についての検討

皮膚への接触面の異なる市販の2種の皮厚計 (Keys式と Harpenden 式を用いて比較検討を行った。Harpenden 式の皮厚計は基準 (S) に対して補正が必要なが認められた。

30 mm 以内の観察結果について $H=1.05s+0.12$ の式が得られた。

3) 皮厚計の実施応用成績(成年男女についての観察)

Keys 式と Harpenden 式とを用いて東北地方2農村住民について比較検討したところ, 補正をすれば一部を

除き両者間に有意差があるとは認められない成績を得た。両者の順序又測定回数ごとの差は認められなかった。Keys 式の方が Harpenden 式より測定値に有意ではないが偏差が大きい傾向が認められた。皮厚と上腕囲, 体重とは有意な相関関係は認められたが, 血圧との関係は明らかでなかった。

4) 三才児検診時に測定した場合には Harpenden 式の方が Keys 式より大きな値を示すようであり, 身長, 体重, 胸囲, 上腕囲と皮厚との間に女の子において有意な相関関係が認められたのに, 男の子では上腕と背部との皮厚は相関が認められず, 背部では他の項目と逆の相関関係のある傾向が認められた。

5) 小児の血圧について多目的自動血圧計の機構を用いて, 測定時の各種要因について検討を行った。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

1) 中学生の血圧の追跡的疫学研究の成果

佐々木, 他: 秋田県一農村における中学生の血圧とその後の推移について, 第 4 報, 中学生時代の血圧と成人後の血圧との比較検討。